

植物のふしぎ (I)

目黒修治

少し昔のお話です。どれくらい昔かと言うと、今からおよそ25年ほど前、所はアメリカのニューヨーク、タイムズスクエアに面したオフィスビルの一室での出来事から、このお話は始まりました。

(その1)

米国のうそ発見器検査官の第一人者でありますクリーブ・バックスター氏は、自分の仕事部屋に置いてある、ドラセナ(観葉植物の一種)の葉に、ふとしたでき心から「うそ発見器」の電極を取りつけてみようと思ひ立ちました。

バックスター氏が知っていたのは、根に水を注ぐと葉が影響を受けるかどうか、受けるとすればどんな影響でどれくらい早くそれが現れるか、ということでした。バックスター氏の驚いたことに、ドラセナがしきりに水を幹へ吸い上げているとき、検流計は予想に反して抵抗の減少を示さなかった(水分が増えた木では電気伝導が大きくなるので、抵抗は小さくなると当然予想されたことなのに)。グラフ紙の上のペンは上方へ向かわりに下方へ向かい、記録用紙にたくさんの鋸歯状運動の跡を記していました。検流計はポリグラフうそ発見器の一部で、弱電流が流れている導線を人間に取り付けると、心的なイメージとか、人間感情のどんなかすかな動揺にも応じて針を振らせるか、動いているグラフ紙にペンで図形を描いて記録するものです。

バックスター氏のドラセナは、驚いたことに短期の感情的興奮を経験している人間のと、極めて良く似た反応を彼に示しつつありました。植物が感情を表出するなんて、あり得ることでしょうか? 検流計の針を急激にジャンプさせるほどの強い反応を人間のうちに誘発するもっとも有力な方法は、その男か女(被験者)の安寧を脅かすことです。バックスター氏はまさにそれを植物に対してやってみようと考え、電極が取り付けられているその葉を焼いてみようと思ったのでした。彼が心に炎の像を描いた瞬間、マッチを取りに歩き出す間もなく、グラフ上の日記記録模様に劇的な変化が現われ、記録ペンは上方へ長く振れた形をとったのでした。植物は彼の心を読み取ってしまうことができたのでしょうか? バックスター氏が部屋を離れてマッチを持ってもどって来たとき、彼は別の突然の電流の変動が図表に記録されているのを見いだしたが、それは威嚇を実行しようとする彼の決意によって引き起こされたものであることは明らかでした。気の進まぬままに、彼は例の葉を焼き始めました。今度は最高点が前よりも低い反応がグラフに現われました。後で、葉を焼くふりをしたときの針の動静を注意深く調べてみましたが、反応は皆無でした。

植物には、本当の意図とうわべだけの意図とを識別する能力があるらしい……。

バックスター氏と彼の協力者達が、植物も器械もいろいろ取り替え、国中のあちこち場所を変えて実験しても同様の観察をすることができました。

レタス、タマネギ、オレンジ、バナナを含む25種を越える植物と果物がテストされました。観察結果はいずれも類似したもので、それは科学にとって何か爆発的な内容を持つ、新しい生命観を要求していました。

(その2)

植物が記憶力を明示することができるかどうかを見るために、一つの計画が工夫されました。二本の植物のうち一本をこっそり殺した人物をバックスター氏が割り出そうという試みです。バックスター氏の講習を受けているポリグラフ研究生のうちから六人がこの実験に志願しましたが、その中にはベテランの警官も幾人かまじっていました。六人の研究生たちは目隠しをして、帽子の中から折りたたまれた紙片を引きました。そのうちの一枚には、ある室内の二本の植物のうち一本を引き抜き、踏みつけ、完全に殺すようにとの指令が書かれていました。犯人はその犯罪を極秘のうちに犯すことになっていました。バックスター氏にも他の研究生の誰にも犯人の身元は知られないようになっていました。目撃者といえ、ただ残った一本の植物だけという設定でした。

生き残った植物をポリグラフにつなぎ、その前を研究生たちに一人ずつ順に歩いてもらうだけで、バックスター氏は罪人を確認することができました。案の定、植物は五人の研究生には何の反応も見せなかったが、犯人が近づくやいなやメーターの針を激しく振らせたのでした。

(その3)

特定の人に一度同調する(波長が合わされる)と、その人がたとえどこへ行こうと、何干という人々の中にまじっていると、植物はその人とのきづなを維持することができるらしい。ニューヨークシティの大晦日の夜、バックスター氏は筆記帳とストップウォッチで身をかため、タイムズスクエアの騒々しい雑踏の場へ出かけて行きました。群衆にもまれながら彼は自分のさまざまの行動を書きとめた——歩いたり、走ったり、地下鉄の階段で地下へもぐったり、危うく車にひかれそうになったり、新聞売りとちょっと喧嘩をしたことなどをノートしました。研究室にもどったバックスター氏は、それぞれ別々に測定されていた三本の植物がどれもみな彼のちょっとした感情の冒険に対して同じ反応を示しているのを認めました。

